



1 水戸市のDX化 学生提言!



発表後に講評する高橋靖水戸市長

2月26日(水)、二回目となる「水戸市長への政策提言プレゼンテーション」が実施されました。これは市の行政担当者が設定した3つの課題に対し、ITを活用した解決案を学生が研究調査するもので、今後のDX化への提言になるものです。

① 「“おうち給食”でHealthy Life!」

情報システムコース2年

坂井恭吾(水戸桜ノ牧高卒)さん、
佐藤勝輝(日立商高卒)さん

○水戸市の給食献立表をベースに、家庭でも調理できるようにAIでレシピ化し、栄養士の確認を得たレシピを、家庭からでも手軽に活用し給食が調理できる。家事負担を軽減し子育て世帯をサポートするシステムである。



「おうち給食」を体験する水戸市役所の皆さん

② 「外国人向け水戸市バス利用案内Webシステムの開発」

生産管理コース2年

木戸仁哉(太田一高卒)さん
ディアナ(インドネシア)さん

○水戸市在住の外国人も増え、水戸市内のバス利用者も増えているが、利用上の課題が多い。水戸市で進めているデジタルの活用と独自のアンケートを元に、案内システムを構築した。外国人の不安を解消するシステムである。



「バス利用案内Webシステムを発表する学生

③ 「位置情報と3D都市モデルを活用した『#みとさんぽ』

アプリ開発」 情報セキュリティコース2年

小原大地(水戸農高卒)さん 皆川航太(水城高卒)さん

○水戸市の魅力再発見と、市民の健康増進を狙いとしたものである。水戸市で進めている「歩きたくなるまちづくり」と「3D都市モデル」を統合したシステムである。位置情報を活用しテーマを決めて市内を散歩できるシステム。

高橋靖水戸市長は、「実践的な研究発表でした。行政へのIT活用は必然ですが、費用対効果のバランスが重要です。次代を担う皆さんには、このような実践を重ね、ITを活用した実践力を磨いて欲しい」と期待を込めて話されていました。

2 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞茨城新聞(2025年2月17日)
パンポン 昼休みの気分転換に
日立製作所で誕生

●木元心結さん(多賀高卒)

◇要約: 1921年頃、日立製作所の工場でキャッチボールに変わる運動として、パンポンが生まれた。

パンポンは気分転換になるだけでなく、職場間の交流の場になり仕事にも良い影響を与える。長年愛されるスポーツである。

◇感想: 私の出身高校は、日立市にあるので、クラスマッチや体育の授業で行うなど身近なスポーツだ。

会話できるくらいの運動量なので、体を動かしつつ人との交流ができる。クラスの人の交流の場となっていた印象だ。

●横島空馬さん(東海高卒)

◇感想: おじいちゃんが昔、パンポンをやっていたので、子供の頃一緒にパンポンをやっていた。



そのパンポンが日立製作所が発祥と知って驚いた。今から約100年前に誕生し、今も受け継がれていることに驚き感動した。

●高木皓貴さん(水戸啓明高卒)

◇感想: 仕事の合間に楽しむために生まれたスポーツが、今でも続いているのは興味深く感じた。

体を動かすことでリフレッシュだけでなく、社内の人々の交流にも役立っていることが魅力的だなと感じた。一度やってみたい。

●村澤伸哉さん(勝田工高卒)

◇感想: 短大に入学し、初めてパンポンの存在を知った。昼休みの気分転換にこのアイデアから生まれたパンポンが、世界大会まで成長していることに大変驚いた。

私もこのようなアイデアを持って、新たなモノを創っていきたい。

●田畑 潤さん(鹿島高卒)

◇感想: 本校の先生方は、日立製作所の出身の方が多くいらっしゃいます。昼休みになると、先生方がパンポンをやっている光景が良く見られます。

日立の企業では、「パンポンやっています」と言うのが面接に有利?らしい。頑張りたい。

